



福島支部会報

日本山岳会福島支部

NO 3 JAN. 1. 2015
 発行 公益社団法人 (平成 27 年)
 日本山岳会福島支部
 支部長 小林 正彦
 事務局 〒960-8133 福島市桜木町 13-43
 渡部 展雄 宅気付
 電話(FAX) : 024-533-0541

平成 27 年の初春に当たり
 心よりお慶び申し上げます
 皆様の益々のご健勝お祈りします

小林正彦福島支部長の新春談話

謹んで新年のお喜びを申し上げます。
 お陰様で昨年は、多くの支部会員のご協力で各行事を無事乗り切ることができ、深く感謝いたしております。
 新たな試みとして、昨年より支部会報を発行して会の情報をお届けしております。担当者にはご負担をかけておりますが会員の皆さんから大変好評を得ております。今年も変わらぬご協力をお願い致しまして、安全登山に徹し、微力ながら支部活性化に力を注ぎたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。平成二十七年 元旦

初冬の北ア燕岳登山を実施

11 月 20 日(木)～22(土)に、第5回目となる恒例の北アルプス初冬登山を実施。参加者は、小林正彦支部長、深谷金之助、佐藤一夫、清野義美、三瓶恵子、塚原幹夫、土屋信雄、氏家光政、穴戸茂の9名。初日は有明荘に宿泊。二日目は快晴の合戦尾根をひたすら登り、午後3時に燕山荘に到着。
 山荘から望む北アルプスの絶景に全員感動。三日目は生憎の曇り空、小雪がちらつく中、燕岳山頂まで往復し無事下山。
 帰宅は午後 11 時となり、この日発生した「震度6弱・長野北部地震」をニュースで知り、複雑な思いで床に就きました。
 (佐藤一夫記)



日本山岳会 福島支部
 【初冬の燕岳】登山

燕岳山頂にて記念撮影

白馬村、小谷村の一日も早い復興をお祈りします

平成 27 年 1 月以降の支部活動方針(計画)

11 月 14 日(金)支部役員会を開。平成 26、27 年度活動総括と方針について協議。夏場の天候不順で中止となった公益的事業を優先します。以下、新年度の計画抜粋です。

- 支部総会～4 月 12 日(日) 二本松市
- 山行計画～7 月夏の燕岳、9 月黒部下ノ廊下、10 月北アルプス登山(上高地山研ベース)ほか
- 東北北海道地区集会～9 月札幌・定山溪温泉

「新日本山岳誌」の校正・確認作業の実施

日本山岳会編「新日本山岳誌」が 10 年ぶりに改訂されることになりました。本年 12 月に JAC は創立 110 周年を迎え、その記念事業の一環として取り組みます。福島支部は、「山岳誌」中 120 座を対象に、これの校正・確認作業を行います。支部全体で推敲させたいと思います。新年早々、前回の執筆者はじめ支部員各位には具体的に対象山岳を指定させていただき、3 月末を目途に完了させ、本部報告致しますので、ご協力よろしくお願い致します。

事務局からのお知らせ

● JAC 福島支部「青柳山荘」の開設

霊山神社で有名な広葉樹林の小高い丘に、支部会員交流の場として「JAC 福島支部青柳山荘」を開設しました。下記略図のとおり霊峰・霊山直下、国道 115 号から 500M の場所です。青柳勲会員が長年の夢を実現するため独力で建設した山小屋で電気、ガス、風呂、薪ストーブ等の施設が完備するととても快適な空間です。宿泊(20 名以上可)される場合は、シュラフ持参。青柳さんの好意で常時無料開放します。交流会、新年会、忘年会ほか私的にも利用できます。利用申し込みは支部事務局までご連絡を！。



略図は拡大できます

● 宮森常雄氏が JAC 永年会員に

福島支部会員宮森常雄氏は、平成 26 年 12 月開催の年次晩餐会で「永年会員」として顕彰されました。国際的にも有名な登山家、日本 K2 隊員として世界第 2 の高峰登頂をサポートするなど輝かしい実績を残されました。また、ヒンズークシュ・カラコルムに造詣が深く、同全域の地図作製に貢献をされ、平成 14 年には「秩父宮記念山岳賞」を受賞、この地域を目指す遠征隊のバイブルとなっています。さらネパールでは、仲間と共にこれまで私費で小学校 8 校、診療所 2 施設を建設、多くの表彰を受けています。



12 月の年次晩餐会で

宮森氏は、JAC 入会 50 年を振り返り次のようにコメントされています。
 「長らく幽霊会員で恥ずかしかったが、初めて福島支部 65 周年記念カラコルム遠征をお手伝いできて非常に嬉しい。皆様には支部を大いに盛り上げてくださるようお願いしたい。」

これからもお元気で活躍ください。